

秋季
県高校野球

第2日

秋季県高校野球選手権は第2日の17日、はるか夢、県営、黒石市営の3球場で2回戦計8試合を行い、ベスト8が出そろった。初戦をコールド勝ちして勢いに乗る弘前東は、夏の甲子園大会に出場した八学光星に7-6で競り勝ち、準優勝した2019年以来の8強入り。青森北は終盤に6点差をひっくり返し、大湊に逆転勝利を飾った。夏の県大会準優勝の八工大一は五所川原、同3位の青森山田は七戸六ヶ所・野辺地・五所南・松風塾・浪岡の6校連合に、それぞれコールド勝ち。地区予選で弘前学院聖愛を破った弘前は、八戸北を7-4で振り切った。東奥義塾は青森南、青森商は八工大二、野辺地西は大間を下した。大会第3日の準々決勝は19日に行う予定だったが、台風の影響で全4試合が21日に順延となった。（本紙取材班）

野辺地西 中盤集中打

大間 最終回意地の3点

【評】野辺地西は2-1で迎えた四回、工藤友

の適時三塁打など長短打4本を集め一挙5得点。六回には小山田、笹館の二塁打を含む4連打などで3点を追加し試合の主

導権を握った。投手陣は樋口、瀬川、花部、小山田のリレーで大間の終盤の反撃をしのぎきった。大間は6点を追う最終

回、根戸内の2点適時二塁打などで3点を返す意地を見せたが、中盤の失点が重くのしかかった。◆先制打など計4安打を打った野辺地西の工藤友（2年） 感触はずごく良かった。相手の球種が少なかったのでしたっかり対応できた。あと1点でコールド勝ちという場面が何度あったが、決めきれなかったのはチームの課題。集中力を切ら

さず、守備を乱さないよう改善したい。